



NNA SINGAPORE PTE. LTD.

10 Anson Road, #14-08 International Plaza, Singapore 079903
Tel : 65-6738-3333 Fax : 65-6227-2995 E-mail : sales_sg@nna.asia

MCI(P)023/06/2021 Company Reg No.199500734E

入国規制、20日から一部緩和 接種完了者の隔離なし枠組みも

シンガポール政府は19日、新型コロナウイルスの感染対策として実施している入国規制を一部で緩和すると発表した。8月20日深夜から香港・マカオからの隔離なしの入国を認めるほか、9月8日からはドイツとブルネイを対象に、新たな枠組み「ワクチントラベルレーン」を設け、ワクチン接種を完了した人を対象に、隔離なしの入国を認める。日本からの入国についても制限を一部緩和する。ワクチン接種率が上昇する中、海外との人の往来を段階的に再開し、経済と国際航空ハブとしての地位を回復するのが狙いだ。



シンガポール政府は新たな枠組みを設けて入国規制を一部緩和する＝シンガポール東部（NNA撮影）

既存の入国規制では、新型コロナの感染リスクの程度別に国・地域を4種類に分類している。8月20日午後11時59分からは、香港・マカオを感染リスクが非常に低い地域として、最も制限が緩やかな「カテゴリーI」に分類する。同地域からの短期滞在者の受け入れを認めるほか、シンガポールの空港到着時のPCR検査で陰性となれば、隔離なしで滞在できるようにする。

21日間以上、香港・マカオまたはシンガポールに連続して滞在していた人が対象。シンガポールの居住者が香港やマカオに行って数日で戻ってくることも可能になる。新型コロナのワクチンを接種していない人も対象だ。

香港との間で協議を続けてきた隔離なしの往来の枠組み「エア・トラベル・バブル」については、実施が難しいことを両国・地域で正式に確認した。双方で一方向的に入国規制を緩和することで、人の往来の再開を促す考えだ。

9月8日からは、ドイツとブルネイを対象に新たな枠

組み「ワクチントラベルレーン（VTL）」の運用を開始する。ファイザー製またはモデルナ製、あるいは世界保健機関（WHO）が「緊急使用リスト」に掲載した新型コロナワクチンの接種完了から、2週間以上が経過した人を対象とする。

カテゴリーIと同様に、短期滞在者も利用可能。シンガポール居住者の短期往来での利用も想定している。指定の航空機に搭乗することを求め、外国人には新たに設けた入国申請パス「ワクチントラベルパス（VTP）」の取得を義務付ける。

隔離なしでの入国を認める代わりに、出発前48時間以内のPCR検査、シンガポール滞在中の数日おきの検査など、厳しい検査体制を設ける。

日本の接種者、自宅待機可能に

8月21日から、日本、ベルギー、デンマーク、ルクセンブルクを従来の「カテゴリーIV」から「カテゴリーIII」に引き上げる。シンガポール入国後、政府指定のホテルなどで14日間待機する措置（SHN）を求めますが、ワクチン接種完了から2週間以上経過した人には、自宅または自己指定のホテルでの待機を認める。

感染対策の閣僚級作業部会が19日に行った会見で、S・イスワラン運輸相は「小さな都市国家であるシンガポールの経済を保つには、国境を開いておく必要がある。ワクチンを接種した人が増えたことも考慮し、段階的なアプローチを経て経済の回復を目指すとともに、国際航空ハブとしての地位を取り戻していく必要がある」と入国規制緩和の意義を強調した。

作業部会の共同議長を務めるローレンス・ウォン財務相は、「入国規制やそのほかの活動制限を緩和したからといって、劇的な経済の回復は見込めない。道のりは厳しいことが想定され、感染者とクラスター（感染者集

【シンガポール—サービス】

コーヒーロボット、MRT 30 駅に設置へ



ステラ・ライフスタイルは、クラウン・デジタルとの共同事業で、MRT の 30 駅にコーヒー提供ロボットを設置する (ステラ・ライフスタイル提供)

シンガポールの公共交通運営大手 SMRT のグループ会社であるステラ・ライフスタイルは、都市高速鉄道 (MRT) の駅構内にコーヒーを提供するロボットを設置する。現地のロボット新興企業クラウン・デジタルとの共同事業で、2022 年末までに約 30 駅に配置する計画だ。クラウン・デジタルにとって鉄道関連施設にロボットを置く事業は、JR 東日本との提携以来、2 件目となる。

クラウン・デジタルが開発したコーヒー提供ロボット「ELLA」を、SMRT が運営する MRT 路線の駅に設置する。人工知能 (AI) やモノのインターネット (IoT) ロボットアーム技術を組み合わせ、コーヒー

の注文受け付けから提供までの一連の流れを無人化・自動化したロボットだ。

ロボットシステムの設置面積は 5 平方メートル未満。最大で 1 時間当たり 200 杯のコーヒーを提供可能という。専用アプリでコーヒーの事前注文も受け付ける。

ステラは今回の提携を機に、プレシリーズ A と呼ばれる初期段階の資金調達ラウンドでクラウン・デジタルに出資することも決めた。クラウン・デジタルは調達資金を駅構内のロボット設置費用に充てる。

駅で提供するコーヒーの価格は明らかにしていない。クラウン・デジタルは繁華街オーチャードの商業施設「プラザ・シンガプーラ」と中心部ラベンダーの複合施設「CT ハブ 2」で既に「ELLA」を運用。持ち帰りのコーヒーの価格は 3.5 ~ 4.5 S ドル (約 280 ~ 360 円) で、ラテやアメリカンなどを取りそろえる。

クラウン・デジタルの持ち株会社であるクラウン・テクノロジーは 1 月、JR 東日本のシンガポール現地法人、JR 東日本東南アジア事業開発から出資を受けると発表。JR 東日本の駅で「ELLA」のテストマーケティングを行うことでも提携していた。出資額は非公開だ。

ステラ・ライフスタイルの前身は SMRT コマーシャル社。鉄道関連施設内の小売りスペースや広告の管理業務を手掛ける。今回のロボット設置は、公共交通機関の施設内スペースを有効活用し、通勤・通学者に最新技術を気軽に体験してもらう場所を提供するのが狙いだ。

【シンガポール—食品】

代替鶏肉のシャンディ、工場建設へ資金調達

シンガポールのフードテック (先端食品技術) 企業シャンディが、同国複合企業のトララム・グループなどから 70 万米ドル (約 7,700 万円) を調達した。代替鶏肉の工場開設などに充てる。

シャンディは 2019 年創業。植物由来の代替鶏肉商品を開発している。2022 年 1 ~ 3 月期から食品事業者向けに製品を提供することを目指しており、代替鶏肉の工場を国内に建設する計画だ。

今回は起業直後の段階で実施する「シードラウンド」

の 2 回目の資金調達を実施し、トララムやフードテック関連のアクセラレーターであるオーストラリアのスパーククラブズ・カルティブ 8 などが引き受けた。

トララムは食品、製紙、包装、繊維、エネルギー、物流、不動産など幅広い事業を展開している。食品はアフリカが主な事業拠点で、同地域で 23 工場を持つ。代替鶏肉など代替タンパク関連への出資は初となる。

【18 日シンガポールプレスホールディングス = NNA】

「引越一筋、引越専門。」



クラウンライン

電話 6261-0880
電話 6266-6150 (日本語専用電話はじめました)

CROWN LINE(PTE)LTD.

お見積もりから梱包、そしてお届けまで日本人スタッフがしっかりとサポート。日本の心で大切なお荷物、お運びいたします。

● Eメール: hikkoshi@crowline.com.sg